



神戸大学附属図書館報

神戸大学附属図書館

(Issue Date)

2000-04-01

(Resource Type)

other

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100475578>



神戸大学附属図書館報

The Kobe University Library Bulletin Vol. 10 No. 1



春季号

April 2000

図書館室の利用環境が整備されました！

21世紀を目の前にして大学像や高等教育のあり方が、様々に議論されています。平成10年10月、大学審議会が文部大臣への答申『21世紀の大学像と今後の改革方策について』のなかで大学教育のあり方として課題探求能力、すなわち「主体的に変化に対応し、自ら将来の課題を探求し、その課題に対して幅広い視野から柔軟かつ総合的な判断を下すことのできる力」の育成が重要であり、そのために教養教育を重視する必要があることを強調しています。

教育・研究支援の組織である図書館は、研究支援と共に本学の教養教育整備の要請に答え、教養教育の充実に寄与することが求められています。そのため、一つは神戸大学附属図書館将来構想を昨年10月から図書館審議会において検討いただいております。いま一つは、当面の施策として昨年7月、全学共通教育が行われるキャンパスにある国際・教養系図書室改善のために「教養教育支援拡充整備計画」を大学教育研究センターとともに学長に提出しました。

その結果、学長の指導のもと全学のご理解を得て、学長裁量の教育研究特別経費を措置いただいたことにより、2000年4月から国際・教養系図書室は、図書の整備と施設の一部をリニューアルして利用できるようになりました。また、教育基盤設備費によって、自然科学系図書館には、24時間自動入退館システム、医学部分館には、入館システムおよび無断持ち出し防止のブックディテクションを導入しました。その内容等を次のページに紹介します。

更に、昨年度から試験期の特別開館を実施していますが、今年度は対象館室を広げます。人文・社会科学系図書館においては4月以降、授業期間中の日曜日を開館することになりました。国際・教養系図書室の新刊図書、語学資料等とともにご利用ください。

(情報サービス課)

国際・教養系図書室のリニューアル

1. 学生用図書資料の格段の充実

学生が学問の各分野について多方面に学習が行えるよう、新刊書を中心とした一般教養関係の和書及び洋書、シラバスに掲載された参考図書を約4,500冊開架閲覧室に配架しました。また、国際化時代に対応し、語学学習を援助するため、ビデオ・CD・カセットなどの語学教材ソフトを購入、これらを視聴するためのAV機器を3台新たに設置しました。

2. 情報検索パソコンの拡充

CD-ROM やインターネットなどの検索をより多くの利用者が行えるよう、12台のパソコンを増設しました。

3. 図書自動貸出装置の設置

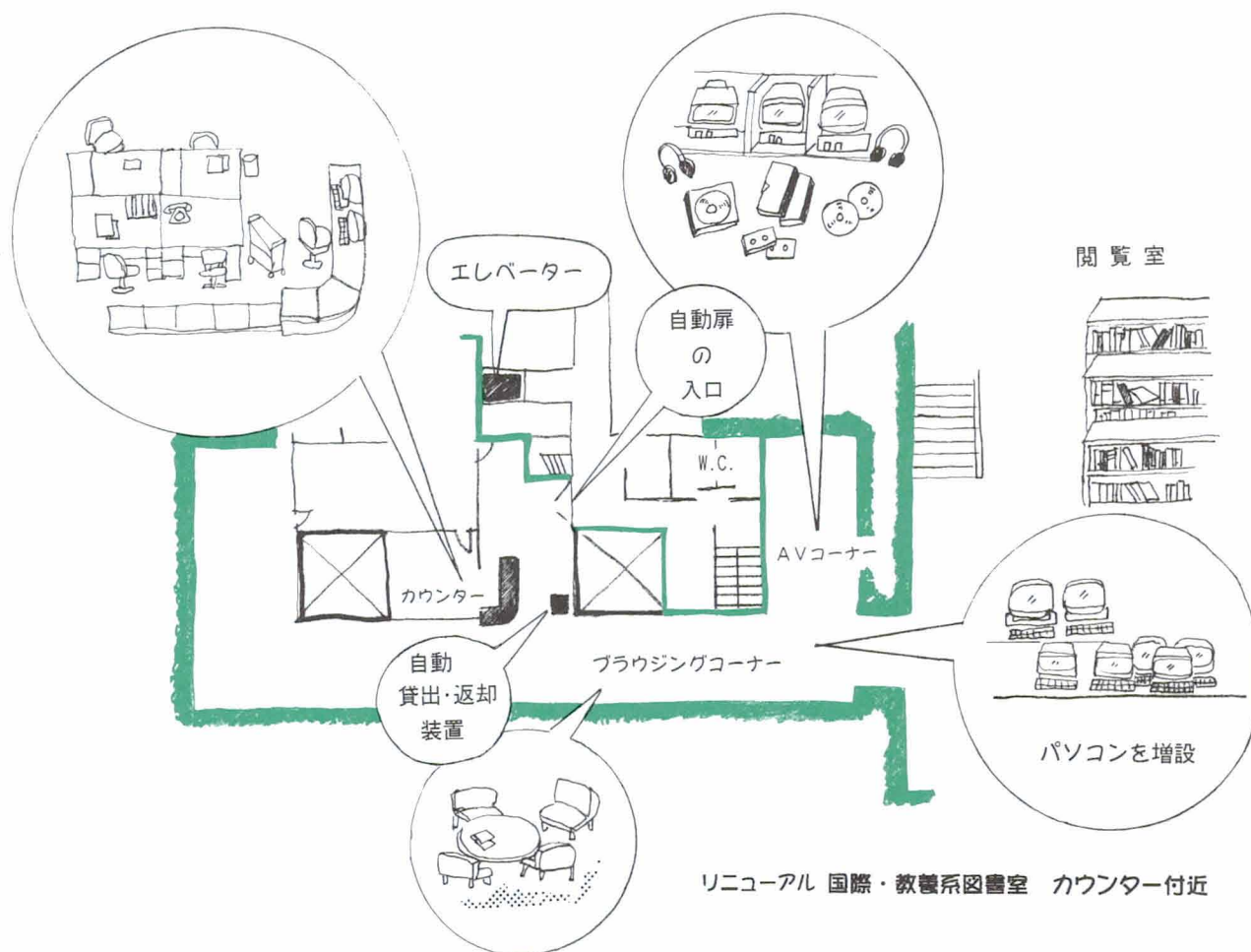
カウンターで渋滞することなく図書貸出がスムーズにできるように、利用者自身が図書の貸出を行える装置を1台設置しました。この図書自動貸出装置に対応して、ブックディテクションも新規に更新しました。

4. 図書室入口に自動ドア設置

利用者の出入りの混雑を解消するため、入口部分の空間を広くし自動ドアを設置しました。これに伴い図書館への入口が変わりました。

5. 壁・天井の塗装、床にカーペット敷設

図書館利用環境を向上させるために、壁や天井を塗装して明るいものにするとともに、床にはカーペットを敷き、落ち着いた雰囲気になりました。



自然科学系図書館に24時間自動入退館システム導入

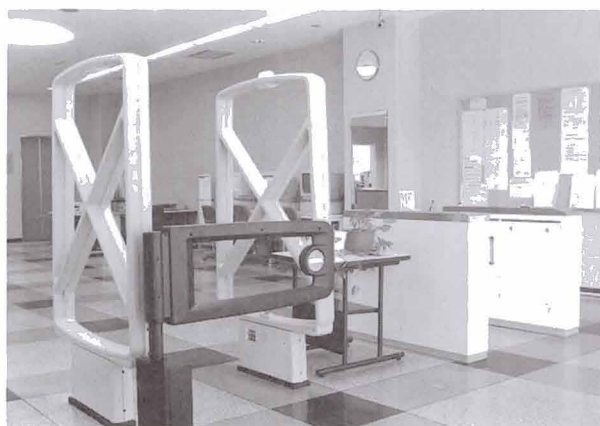
この設備は現在医学部分館に設置している特別入退館システム（24時間システム）と同様な設備です。特別利用を許可された利用者は開館時間以外の無人時において、図書館の発行する「図書館利用者カード」で入館し、図書館所蔵資料をいつでも検索・閲覧ができます。なお、特別利用対象者は本学の大学院学生・教職員を予定していますが、現有図書館設備では照明を始めマニュアル部分が多いため、開始当初は教職員のみとし、状況を見ながら大学院学生まで拡大する計画です。



（図書館利用者カード）

医学部分館に入退館システム導入

医学部分館の入口に、新しく無断持ち出し防止装置を含むゲート(写真)が設置されました。図書館に入るときには、IDカード「図書館利用者カード」を使用するシステムです。この入退館システムの利用カードは、主に医学部の学生・教職員を対象に発行します。このカード化により、現在運用中の「図書館利用証」（学生証）による貸出や「時間外入館カード」による特別利用（24時間システム）のサービスを、この一枚のカードで利用できます。なお、この「図書館利用者カード」は、自然科学系図書館の24時間自動入退館システムでも利用できる共通カードです。



（医学部分館 入退館ゲート）

これら新システムの利用申込み手続き等は、24時間自動入退館システムは自然科学系図書館カウンター、医学部分館入退館システムは医学部分館カウンターで行います。詳細は館内掲示及び図書館ホームページでお知らせします。

図書館では、今回リニューアルとなった国際・教養系図書室などの他にも利用者サービス向上に向けて、学習環境の整備、図書資料の充実、また開館日・時間等の拡大などについて、利用者の要望を聞きながら整備をおこなっていきます。

米国の大学図書館で考えたこと

稲 積 包 昭

4年に一度だけ全米の、いや少し大袈裟に言えば、全世界の注目を浴びる州があります。大統領選挙の結果に大きな影響を与えている予備選の口火を切る、普段はほとんど経済的にも政治的にも話題になることがない、米国東部にあるニューハンプシャー州です。そしてその小さな町、ダラム(Durham)にあるニューハンプシャー大学(UNH)の図書館での経験から日本の大学図書館の稀観書のインターライブラリー・ローン(interlibrary loan)制度について考えてみました。

ところで、19世紀アメリカの作家、ハーマン・メルヴィルは代表作である、*Moby-Dick* (『白鯨』)の前に、4本の冒険小説を書いています。脱走水夫として南太平洋の島々で体験した数奇な出来事を描いたものです。南洋の島々での脱走、捕虜生活、自国の軍艦による救助までをそれぞれあつかった作品は“冒険物語”として当時のアメリカ人読者に歓迎されました。ところがそのあとに発表された『白鯨』は、白鯨に片足をかみ取られ、復讐の鬼となった船長と *Moby-Dick* と呼ばれた巨大鯨との3日間にわたる死闘を描いた雄大な海の叙事詩ですが、寓意に満ち、それ以前の作品とは全く異なるものになっています。単なる海洋冒険物語作家から、今日世界の十大小説の一つとして高く評価されるこの作品を描くにいたった変化は何だったのか。メルヴィル研究者はその謎を解こうとして奮闘しています。シェークスピアが作品の内容面に与えた思想的・哲学的影響についてはかなり早くから指摘されていますが、作品中に多く用いられた新造語、古語、ハイフン付き複合語など文体面における特徴が彼独自のものなのか、あるいは多くの読書による影響によるものなのかについては未だ本格的な研究はなされていません。メルヴィルが愛読した『シェークスピア全集』(1837年、ボストン発行)は彼の死後、遺族によってハーバード大学・ホートン・ライブラリーに寄贈されています。1985年、UNH 研修中に同図書館を訪ねましたが稀観書中の稀観書ということで閲覧を許可されませんでした。シェークスピアの影響は文学的な面だけでなく、文体的にもこの全集によるものではないかと思っていた私は先ずこの全集に用いられているハイフン付き複合語を全部調べ上げ、次に『白鯨』以前の作品中のハイフン付き複合語と『白鯨』中のそれとの異同を比較する計画を立てました。それにはどうしても1837年版を直接調べる必要があります。

1991年、再び UNH で研修中、インターライブラリー・ローンという制度があり、全米の大学図書館の蔵書を借り出すことが出来ることを知りました。(もちろん、こういう制度は日本の大学図書館の間でも実行されていますし、稀観書であっても直接所蔵する図書館に行けば閲覧することは可能です。ただし、近在の図書館ならいざ知らず、遠い沖縄や北海道の図書館に閲覧に行くだけでも大変なところなのに各巻平均700ページ、全7巻を調べるには一日、二日の作業というわけにはいきません。) UNH の図書館の担当者に研究の目的と『全集』の借り出しを相談したところ、先ず、この『全集』がどこの図書館に現存するのか直ぐにコンピュータ検索で調べてくれ、私の記憶に間違いがなければ、全米にホートン・ライブラリーを含めて4セットあること、しかしその全ての図書館が館外貸し出しができない本に分類されているとのことでした。その知らせにがっかりするとその担当者は、あなたは1837年版に拘っているがこれは第2版であって実は1836年に出版された初版が検索の結果メイン州の Bowdoin College にあるからこれでもいいならトライしてみようと言って、同大学図書館に頼んでくれました。結果は OK。一週間後に送られてきました。貸し出し期間は2週間、複写・館外持ち出し禁止、図書館内の指定された場所での係員監視のもとでの閲覧という条件付きでした。この制度のおかげで遠くまで行くことも、何日もホテルに泊まることもなく作業を終えることができ、この制度と両図書館にたいして深く感謝した次第です。

さて、神戸大学をはじめとして、我が国の多くの図書館には稀覯書の利用者への提供の仕方、稀覯（貴重）書の扱いに関して、まだアメリカの大学図書館で行われているようなインターライブラリー・ローン制度が確立されていないようです。時間的・経済的理由のために利用できない稀覯書、普通の本と全く同じ扱いを受け、複写などで傷んでいく貴重書、美術骨董品扱いをされて利用に供されない稀覯書、等々、貴重な本の保存と有効利用のための“interlibrary loan”制度の必要性和その制度充実を痛感しています。

（いなづみ かねあき 副館長 国際・教養系担当）

兵庫県大学図書館協議会講演会（要旨）

平成11年11月4日（木）瀧川記念学術交流会館において、図書館情報大学副学長の田畑孝一氏と同志社大学文学部教授の大城善盛氏を講師に迎え、平成11年度兵庫県大学図書館協議会講演会が開かれました。その講演要旨を掲載します。

ネットワーク文化社会における デジタル図書館

図書館情報大学副学長 田畑孝一氏

ネットワーク文化社会とはどういうものであるか。例えばインターネット文庫の代表として「青空文庫」がある。これは著作者の死後50年以上経て著作権の消滅したものをボランティアの活動によりインターネットで無料で読めるようにしたものである。このようなインターネット文庫はこれまでの文庫・図書館と違い、利用する側は各家庭の端末から24時間利用でき、提供する側はボランティアにより無料で提供できるという点に特徴がある。

マクルーハンによると印刷術以降の活字時代から、電信の発明により始まる電子メディア時代に移り、世界村が出現するとされた。印刷術により知識が大衆に広まり産業革命が起きたが、現在はその電子メディア時代への移行期の中間であり、第二次産業革命が起こると考えられる。世界村の出現とは世界中の人達が緊密な関係になるということであり、図書館情報大学の「日本昔話の多言語デジタル文庫」には各国の人達がボランティアとして参加しており、世界村の出現ということ

を実感させる。また情報伝達技術の発展と社会の変革を考えると、印刷技術の時代に情報の受信者が大衆になることで産業革命が起こったように、デジタル技術になることで情報発信者が大衆になり、それによる大きな変革が想像できる。

ではネットワーク文化社会におけるデジタル図書館とはどのようなものであろうか。それは単に図書資料のネットワークによるデジタル提供ということではなく、図書館のあらゆる活動に一般市民が直接関わるようになり、またデジタル図書館や電子図書館という言葉からすると、人間から疎遠なもののように感じるかもしれないが、今までの図書館より利用者にとって身近なものになっていく方向性をもつ。

紙での出版から電子出版への移行は、いろいろな無駄が無くなり、さらに利用者にとっては、家庭からすぐ見られるという便利さや、とくに Gray Literature のような一般に流通しないものも見ることができるという利点をもたらす。電子出版については出版業者の動きも活発であるが、図書館との関係では著作権や価格など複雑な問題がこれから起こりそうである。国立国会図書館の納本制度ではCD-ROM などパッケージ系のものは納本されることとなったが、ネットワーク系のもの

は到達性、網羅性、補償の点で、納本の対象にすることは当面無理であるとされた。

次に、目録に関する最近の動向について取り上げる。目録の表現形式の進化を人間とマシンの間での情報交換における情報表現という点で見てみる。まず人間同士は理解できるがマシンでは扱いにくいカード目録の段階があり、次にマシン同士にとっては扱いやすいが人間には向いていない MARC の段階、さらには人間とマシンの双方が理解でき従って異なるマシン同士も理解できる SGML の段階へと発展してきている。この SGML では属性をタグとして記述するので、初めて見る人でも、また機械でも理解できる。

またメタデータという用語が最近よく取り上げられる。図書館において、蔵書目録はどのような図書がどこにあるかを表しているが、その概念がメタデータにおいて同じように用いられている。すなわち、デジタル図書館において、メタデータはどのようなネットワーク資源がどこにあるかを表すことに用いられる。これについて、ダブリンコアメタデータが数年前から提案されているが、その項目設定はネットワーク出版物に適している。またあらゆる情報資源を記述する方式として情報資源の記述の枠組み (RDF) が提案されている。これは種々のメタデータを共通に表現できる枠組みを定義しており、情報資源を共有するのに役立つ。

デジタル図書館のシステムでは収集したデジタル資料について、以上述べてきたメタデータの作成、SGML 文書化などを行ない、インターネットを介して利用者に全文検索サービスを提供する。

参考文献：田畑孝一著、デジタル図書館、勉誠出版、155p、1999。

大学図書館における利用者教育の理論と実践

同志社大学文学部教授 大城 善盛 氏

最初に大学図書館における利用者教育の理論的な側面を、理論的にも実践的にも進んでいるアメリカの大学図書館の例を中心に見ていくことにする。利用者教育の目的を歴史的に追いながら利用者教育というものを理解したい。

アメリカでは19世紀末からおこなわれるようになったが、1970年代に非常に盛んになり、試行錯誤が行われた。この状況は現在の日本の大学図書館の状況に似ている。アメリカ大学図書館協会 (ACRL) では利用者教育に取り組み、その結果を1979年に Bibliographic Instruction Handbook という図書にまとめた。それには利用者教育の目的があげられ、また、内容は現在でも通用すると思われる。しかし、1980年代になると、目的の対象が図書館と図書館資料の使い方に当てられているとして批判が出た。80年代には利用者教育の理論化が進み、その真の目的は何であるかの考察が深められた。その結果、概念的枠組みアプローチ、問題解決アプローチなどの理論が生まれた。利用者教育の目的は、学生に問題解決の方法と技術を習得させることである、というふうに変わった。その目的を達成するためには、問題意識の認識からはじめ、問題解決へのプロセスを教えるべきであるとされた。

80年代の ACRL では「情報」を利用者教育の目的の基本概念とした。また、70年代には対象は大学生のみがターゲットであったが、対象を全ての利用者として一般化した。さらに、知的アクセスと物理的アクセスを区別した。

1990年代になると情報リテラシーという概念が出てきた。また、80年代の ACRL の利用者教育の目的では図書館という特定の環境

に依存している、という批判が出てきた。情報リテラシーは図書館の占有物ではなく、その涵養は大学教育の目的であり、図書館の利用者教育は、大学の情報リテラシー教育の支援あるいはその一環として位置付けるべきだという議論が出てきた。

オーストラリアのチャールズ・スタート大学図書館における利用者教育の目的はアメリカの情報リテラシーの概念を基にしたものであるが、その目的は情報リテラシーのある学生を育てることであり、大学の情報リテラシー教育の一翼を担うものであると明確に示されている。その情報リテラシー教育の概念は、大学教育の目標達成のために、図書館は利用者教育をするという発想である。学生が情報を検索・入手し、分析・統合できるようにするという従来の目的から、学生が情報を評価・創造・発表・伝達できるようにするという、図書館を超越したより高い次元に目的を置いている。

日本でも図書館の利用者教育を大学教育の情報リテラシー教育の一環と位置付けるところが出てきているが、チャールズ・スタート大学図書館の情報リテラシー教育の方針は参考になるであろう。利用者教育は大学関係者全て、特に学生全員を対象にすべきであり、受けるべき学生が受けられるようになるまで常に努力しなければならない。

チャールズ・スタート大学の科目統合型の利用者教育の中で、ある科目における情報リテラシー部分を図書館員が担当している。日本でも大学が図書館と一緒に情報リテラシー教育の独立科目を設定する傾向にある。これは図書館や利用者教育の重要性を認識させ、そのレベルアップを図るという点で意義をもつが、受講人数に制限があったり、教える職員の確保や教育レベルへの対応についての問題点がある。

情報リテラシーは社会的文脈のなかで批判的に分析・評価・実現されなければならない、状況依存型の概念であると考えられる。教育レベルに合った情報リテラシーがあり、それは具体的内容で相違するであろう。また、情報リテラシーは学ぶ対象・主題(教科・科目)と切り離せない概念である。

情報リテラシーとコンピュータ・リテラシーを同一視する人もいるが、最近その違いが理解されるようになってきている。

結論として、情報リテラシーの涵養は大学教育の目的であり、大学図書館の利用者教育の目的はその一翼を担うものである。大学図書館が有する情報資源と知識の蓄積はそのため有効である。しかし、わが国では図書館職が専門職でないことが難点であり、その点で利用者教育に対する一抹の不安もある。

(文責 館報編集委員会)

— 平成11年度第2回神戸大学附属図書館講演会の開催 (報告) —

平成12年2月7日(月) 神戸大学附属図書館自然科学系図書館

「大学図書館におけるサービスの高度化について - 千葉大学の現状 -」

千葉大学附属図書館事務部長 石倉 賢一氏

内容：図書館サービスの高度化の方向、千葉大学における取り組み(図書資料等選定の仕組みの改善、外国雑誌の整備、利用者ガイダンスの取り組み、情報リテラシー教育への参画、広報活動の強化)、今後の課題

プレゼンテーション「デジタルアーカイブの最先端 - 大学等の事例 -」

コンテンツ株式会社 小野 博氏

内容：貴重資料のデジタル化(池田家文庫マイクロ化事業)

『武士の成立 武士像の創出』

高橋 昌明著（東京大学出版会 1999.11）

平安中期、貴族は都で儀式や享樂にあけくれ、かたや東国農村では新興の武士が営々と農業経営や開発にいそしむ。やがて武士は源平内乱・鎌倉幕府の創設を経て、退廃した貴族にとって代わり、時代の主役となる。これが、あなたやわたしの小学校以来の常識であった。両者は善玉・悪玉、イソップの寓話でいえばアリとキリギリスの関係にある。

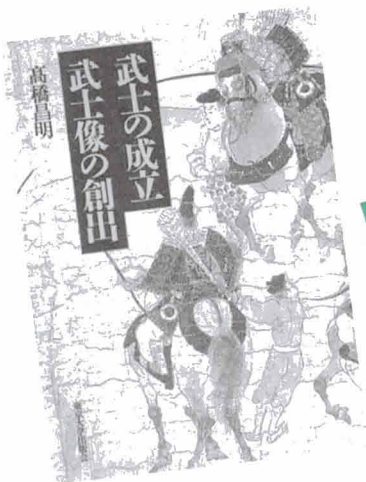
本書はこの常識のウソにチャレンジする。結論から言えば、武士の発生母体は都の貴族社会であり、その登場の時期も奈良・平安時

代初期にまでさかのぼる。だから貴族と武士を単純に新旧の対立と見るのはあたらない。華美文弱と質実剛健の対比も、意識・無意識の先入観とできあいの価値観による、誇張や事実の歪曲であることが多いのである。

筆者は、この虚像創出の背景には、江戸幕府の公式史観や、近代富国強兵の軍国国家下のナショナリズムの作用があった、と考える。ご用とお急ぎのない方、だまされないぞと思う方、NHKの大河ドラマ風ワンパターンの歴史に飽きた方、武士や武器・合戦のお好きな方には、ぜひ、ぜひ、ご一読を。

（たかはし まさあき 文学部教授）

所蔵：人文系図 210-3-TAK



BOOKS

BOOKS

— 自著を語る —



『ブランドー価値の創造』

石井 淳蔵著（岩波書店 1999.9）

「ダンヒル」というブランド名を知っておられるだろう。それはパイプから始まったのだが、今やその名の下に、喫煙具、装飾小物商品、そしてスーツやジャケットやコートなど重衣料に至る多彩な商品を揃えている。それらの商品群にはある種の統一性が感じられるところに、ブランドのブランドたる所以がある。統一性は、「ダンヒル」という名によって与えられる独特のスタイルであったり、独特のテストであったり、ときには、「ダンヒル」という名それ自体によって与えられさえるのだ。これは、まさに名前が独り歩きをする現実と言ってよい。

こうした現実を、高級ファッションだけではなく、身近にある日用雑貨品や食品などにも見ることができる。言い換えると、経済全般にわたってブランドという商品名が企業の浮沈のカギを握り、結果として国の経済を支えている。こうした現実が支配的になってきたのは、ほんの最近のことだ。製品の名前とは製品をうまく売るための小道具だという理解が、今や「その名前にふさわしい商品を作る」という逆の関係に替わった。つまり、名前は実体を支配する地位につく。そうした逆説的な事態が生まれるメカニズムとその帰結、それが本書で明らかにされる。

（いしい じゅんぞう 経営学研究科教授）

所蔵：人社系図 1-1-19643, 19644、

人間系図 081.0-18、国際系図 080-0-I5

◆電子図書館デジタル化事業の開始

平成11年9月に神戸大学電子図書館への登録資料等についてアンケート調査を行いました。調査結果は、ホームページの電子図書館デジタル集に掲載しております。調査にご協力いただき、大変ありがとうございました。

これらの結果を参考に附属図書館研究開発室において検討の結果、神戸大学内の各種研究成果を情報発信していく試みとして、新たに文学部日本史研究室「中川家文書」と内海地域機能研究教育センター「藻類標本コレクション」についてデジタル化事業を開始しました。いずれも関係教官・研究室の全面協力を頂いており、研究者が十分活用できるレベルのデータベースを目指します。

◆平成11年度特別開館(試験期)の実施一報告一

定期試験期間の図書館サービス拡大のため、9月の前期試験に続いて、2月の後期試験期にも、特別開館を実施しました。人文・社会科学系図書館、自然科学系図書館、国際・教養系図書室において平日午後9時30分まで延長、人文・社会科学系、自然科学系の2館においては日曜日の開館を行った結果、前年

度同期と比較して、期間中の利用数は、入館者4,466人(前期・後期合わせて11,822人)の増加、貸出冊数415冊

(前期・後期合わせて870冊)の増加となりました。



附属図書館日誌(1999年12月～2000年3月)

- 12.15 平成11年度全国文献・情報センター人文社会科学学術情報セミナー(京都大学)
- 12.24 平成11年度第5回附属図書館運営委員会開催
- 1.19～20 NAIST 電子図書館学講座(奈良先端科学技術大学院大学)
- 1.20～21 平成11年度国立大学附属図書館事務部長会議(群馬大学)
- 2.7 平成11年度第2回神戸大学附属図書館講演会開催
- 2.14 資料保存研修と保存フォーラム(国立国会図書館)
- 2.21～4.6 国際・教養系図書室改装等工事のため休館
- 2.28 兵庫県私立大学図書館協会阪神地区協議会機械化研究会の講演会及び見学会を神戸大学で開催
- 3.6～7 目録システム地域講習会担当者連絡会議(学術情報センター)
- 3.14 平成11年度第6回附属図書館運営委員会開催
- 3.17～18 大学図書館情報化担当者会議(学術情報センター)

平成12年度図書館説明会のお知らせ

○オンライン蔵書目録(OPAC)検索説明会

4月18日(火)、19日(水) 自然科学系図書館
20日(木)、21日(金) 国際・教養系図書室
神戸大学所蔵の図書、雑誌の調べ方を説明します。

○図書館案内

4月25日(火)、26日(水) 図書館各館・室
図書館施設の案内と、資料の配置や利用手続きなどの説明を行います。

○図書館情報検索説明会

5月8日(月)～12日(金) 図書館各館・室
レポートや論文作成に必要な文献や情報をデータベースにより検索する方法の説明をします。

詳細は掲示、図書館ホームページでお知らせします。

◆「図書館利用者カード」の導入について

本号1～3ページでご案内しているとおり、附属図書館では、平成12年4月から、磁気カードによる「図書館利用者カード」を一部の館で導入することになりました。次の場合にはこのカードを使って利用していただくことになります。

1. 医学部分館に入館するために

4月からは、医学部分館を利用するとき「図書館利用者カード」がないと図書館に入れません。

2. 自然科学系図書館と医学部分館の24時間入退館システムを利用するために

教官、大学院生の方が、自然科学系図書館と医学部分館を開館時間外に利用するには、登録申請をし、講習会を受けていただく必要があります。

3. 名谷分室で図書自動貸出返却装置を利用するために

名谷分室で図書を借りるときは、このカードが必要です。

● 以上は、共通の「図書館利用者カード」によって利用することができます。目的に応じてそれぞれの図書館で登録してください。

【目 次】

図書館室の利用環境が整備されました！

(情報サービス課)	1
米国の大学図書館で考えたこと	4
(副館長 稲積包昭)	4
兵庫県大学図書館協議会講演会(要旨)	5
BOOKS 自著を語る(文学部 高橋昌明／ 経営学研究科 石井淳蔵)	8

◆国際・教養系図書室に「図書自動貸出返却装置」設置

国際・教養系図書室に貸出図書の手続きを自分でできる「図書自動貸出返却装置」が入りました。これまでと同じようにカウンターで手続きをすることも、この装置を使って自分で手続きをすることもできます。

図書貸出は、学生証に印刷されたID番号によって行います。ID番号のついていない学生証をお持ちの方や教職員の方は、従来どおり貸出証を発行します。

◆人文・社会科学系図書館は日曜日も開館します

平成12年4月から、人文・社会科学系図書館では、授業期間中は日曜日も開館することになりました。社会科学系各学部・研究科の授業形態、利用者の要望に沿って始めるものです。

ただし、休業期間中および毎月第1日曜日(4月は第2日曜日)は、定期清掃日のため休館です。



(人文・社会科学系図書館
正面階段横のデザインから)

Information! 電子図書館デジタル化事業の開始、 平成11年度特別開館の実施一報告一、 附属図書館日誌、平成12年度図書館説明会 のお知らせ、「図書館利用者カード」の導入 について、国際・教養系図書室に「図書自動 貸出返却装置」設置、人文・社会科学系図書館 は日曜日も開館します	9
--	---

【編集後記】 月日の経つのは早いもの。アッと言う間にもう4月。と、言っても新入生の皆さんにとってはこれからあり余る時間をどのように使うか、楽しみな事でしょう。図書館にも「お宝」は一杯です。ドンドン利用して下さい、ネ。

神戸大学附属図書館報 Vol.10 No.1(通巻第37号) 2000(平成12)年4月1日発行 URL <http://www.lib.kobe-u.ac.jp/>
編集・発行 神戸大学附属図書館 神戸市灘区六甲台町2-1(〒657-8501) 電話(078)881-1212(代)